

長澤先生、 腎臓って 結局どう診ればいいですか？

目次

適切な判断のための診療センスが身につき、
食事・薬物療法からコンサルトまで自信をもってできるようになる

◆ 推薦の言葉 田中哲洋 3

◆ はじめに 長澤 将 5

§1 高血圧と腎臓 10

降圧の目標／薬物治療の実際／血圧の下限／SGLT2阻害薬の登場

§2 高カリウム血症のマネージメント 22

本当にRAA系が必要な患者か考えよう／偽物の高カリウム血症に注意／緊急でのマネージメント／慢性期のマネージメント

§3 最近の減塩 34

塩と血圧の関係／減塩の第一歩は血圧測定から／減塩がうまくいっているかをどうチェックする？／代替塩をどう捉えるか？／飲水励行をどう捉えるか？

§4 CKDの食事指導 42

「腎臓病といえば低たんぱく食」の考えは古い／カリウム摂取の考え方／リンについてはどうする？

§5 血糖と腎臓 52

糖尿病の歴史／糖尿病治療の目標は？／具体的な治療／SGLT2阻害薬かGLP-1受容体作動薬か？

§6 尿タンパクの捉え方	69
検尿の重要性／原疾患を意識しよう	
§7 腎性貧血の治療	78
腎性貧血治療の歴史的背景／腎性貧血の診断／治療の実際／貧血がよくならないときにどうするか？	
§8 尿酸と腎臓	90
何のために尿酸を下げるか？／重み付けをして診療をしよう／具体的な処方は？／抗酸化作用は？	
§9 造影剤腎症	97
実際のリスク管理／本当はどのくらいの頻度で造影剤腎症が起こるか？	
§10 薬剤性腎障害	106
薬剤性腎障害の歴史的経緯／日常臨床上注意する薬	
§11 急性腎障害	112
AKIからCKDになることが問題／AKIは防ぎえるか？／AKIの診断基準／RRTのタイミング／RRTからの離脱への道筋／バイオマーカーや治療法はあるか？	
§12 急速進行性糸球体腎炎の捉え方	123
日常臨床に潜むRPGN／RPGNの疫学／治療について／治療強度はどうするか？／抗GBM糸球体腎炎はどうする？／診断は大丈夫？	
§13 IgA腎症	139
本邦におけるIgA腎症の疫学／非専門医がIgA腎症発見のためにするべきこと／IgA腎症の治療の歴史	
§14 ネフローゼ症候群	156
ネフローゼ症候群の診断／ネフローゼ症候群の疫学／ネフローゼ症候群の診療に腎生検は必要か？／治療について／再発についてどうするか？	

§15 常染色体優性多発性囊胞腎	174
疾患概念／ADPKDの合併症／ADPKDの診断／遺伝子検査まで必要？／トル バプタンの実際の使用／囊胞感染のときにどうするか？／ADPKDにまつわる Q&A	
§16 脊髄について	190
診断面から考える脊生検の重要性／脊生検の方針／出血量と合併症に関係はあるか？／実臨床に落とし込むには	
§17 ベストな血液透析導入のタイミング	197
どのような患者が透析導入になるか？／何をもってよい血液透析導入とするか？／いきなり週3回の透析がベストか？	
◆ 索引	205
◆ プロフィール	212

Column

● EPO製剤の定義	79
● メチシリソの話	110
● 血管炎の治療	131
● 肉眼的血尿は予後がよい？	143